

令和 7 年

松浦市子ども議会会議録
(中学生)

令和 7 年 松浦市子ども議会議事日程（第 1 号）

令和 7 年 8 月 1 日（金曜日）

- 第 1 議席の指定
- 第 2 会期の決定
- 第 3 一般質問
- 第 4 議員提出 ふるさと松浦のまちづくりをともに考える決議について
議案第 1 号

出席議員（21 名）

1 番	宮 本 琉 希	議員	2 番	松 永 悠 聖	議員
3 番	大 石 華	議員	4 番	下 村 玲 鳳	議員
5 番	田 代 蒼 空	議員	6 番	青 木 悠 一	議員
7 番	久保川 愛 菜	議員	8 番	村 田 一 真	議員
9 番	三 木 幸 輝	議員	10 番	中 尾 颯 希	議員
11 番	中 隈 一 翔	議員	12 番	萩 原 慧	議員
13 番	上 場 汐 央 里	議員	14 番	榊 屋 晶 華 莉	議員
15 番	川 上 杏 莉	議員	16 番	前 田 悠 貴	議員
17 番	内 野 真 優	議員	18 番	渡 邊 果 歩	議員
19 番	脇 山 那 菜	議員	20 番	末 安 陽 奈 乃	議員
21 番	松 下 あ ん り	議員			

説明のために出席した者

市 長	友 田 吉 泰 君	副 市 長	宮 原 宗 尚 君
教 育 長	黒 川 政 信 君	総 務 課 長	山 田 一 洋 君
防 災 課 長	福 守 剛 君	政策企画課長	山 口 武 君
会計管理者兼 会 計 課 長	森 田 俊 行 君	税 務 課 長	畑 原 智 治 君
市民生活課長	嘉 松 正 仁 君	健康ほけん課長	浜 崎 孝 裕 君
長寿介護課長	近 藤 秀 和 君	子育て・こども課長	荒 木 典 子 君
福祉事務所長	下 條 重 光 君	農 林 課 長	金 子 英 樹 君
水 産 課 長	吉 井 裕 二 君	産業振興課長	松 崎 秀 幸 君
建 設 課 長	大 浦 基 和 君	都市計画課長	中 村 桂 一 郎 君
監査委員事務局長兼 選 管 事 務 局 長	坂 本 秀 樹 君	文化観光課長	山 口 玲 子 君
教 育 次 長 兼 教 育 総 務 課 長	土 谷 由 子 君	教育次長兼 学 校 教 育 課 長	佐 藤 利 枝 君
生涯学習課長	中 野 正 和 君	文化財課長	内 野 義 君
上下水道課長	小 熊 盛 君	農業委員会事務局長	樫 山 ま ち こ 君

消防本部次長	富野俊浩君	福島支所長	志水巧君
鷹島支所長	出口義之君		

議会事務局出席者

事務局長	田崎和也君	次長	福守輝雄君
議事係長	川畑修平君	議事係	浜崎恵美君

午後1時 開会

○ 議長(松下あんり議員)

こんにちは。

このたび、子ども議会議長を務めます福島中学校の松下あんりです。よろしくお願いします。

ただいまの出席議員は21名です。

これより令和7年松浦市子ども議会を開会いたします。

それでは議事日程第1号により、本日の会議を開きます。

日程第1 議席の指定

を行います。

議席は議長において指定いたします。

議席番号、氏名を読み上げます。

1番	鷹島中学校	宮本 琉希 議員
2番	鷹島中学校	松永 悠聖 議員
3番	鷹島中学校	大石 華 議員
4番	今福中学校	下村 玲鳳 議員
5番	今福中学校	田代 蒼空 議員
6番	今福中学校	青木 悠一 議員
7番	調川中学校	久保川 愛菜 議員
8番	調川中学校	村田 一真 議員
9番	調川中学校	三木 幸輝 議員
10番	志佐中学校	中尾 颯希 議員
11番	志佐中学校	中隈 一翔 議員
12番	志佐中学校	萩原 慧 議員
13番	青島中学校	上場 汐央里 議員
14番	青島中学校	柊屋 晶華莉 議員
15番	青島中学校	川上 杏莉 議員
16番	御厨中学校	前田 悠貴 議員
17番	御厨中学校	内野 真優 議員
18番	福島中学校	渡邊 果歩 議員
19番	福島中学校	脇山 那菜 議員
20番	福島中学校	末安 陽奈乃 議員

そして、21番、

私、福島中学校、松下あんりです。

日程第2 会期の決定

を議題とします。

松浦市子ども議会の会期は本日1日間としたいと思

いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」という者あり〕

ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日間と決定いたしました。

ここで市長からの発言の申出がっておりますので、これを許可いたします。

○市長(友田吉泰君) (登壇)

子ども議員並びに、本議場にお集まりの皆様、こんにちは。子ども議会開会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。

本日は宮本市議会議長をはじめ、松浦市議会の御支援、御賛同のもと、松浦市子ども議会を開催できますことを大変うれしく思います。

現在、松浦市は、自然・歴史・文化を大切にしながら、市民の皆様が、松浦に住み続けたいと心から実感できるまちづくりを進めています。この子ども議会は、中学生の皆さんに、子ども議員として、住み続けたいを実感できるまちづくりをテーマに、松浦市政を考えていただく機会としており、10年後、20年後の松浦の未来を担う大切な人材である皆さんに、これからのまちづくりを考えていただく場です。

これから皆さんが大人になっていく中で、大切なことは、まずは自分が住んでいる地域のことをしっかり理解するということです。この議会活動を通じて、松浦市の課題に気づき、これからの松浦市のことを考えてくれたことは、皆さんにとっても、そして松浦市にとっても、またそれぞれの地域にとっても意義のあることだと思います。

この子ども議会の一般質問は、市議会の一般質問と同じ方法で行います。前もって議員からの質問の通告を受けて、市役所ではどんな取り組みをしているのか、また、今後どのように進めていくのかを、市長、副市長、教育長、各担当課長で話し合い、その内容をまとめて、皆さんの質問にお答えするという方法です。

子ども議員の皆さんが、今日のために考えた質問を通じて、松浦市の課題を共有し、そして皆さんと一緒にすばらしいまちづくりができるよう、私たちも十分考えて、この子ども議会に臨んでいます。今回の子ども議会の経験を、まちづくりへの参画のきっかけとして、今後も市政に関心をもって、自らが考えた意見を

もとに行動できる人材になってほしいと思っています。

今、それぞれの席で大変緊張していると思います。皆さんが日頃感じていること、考えていることをそして思っていることなどを堂々と述べてほしいと思います。

また、本日の子ども議会の参加については、各学校の先生方の御指導や、保護者の皆様の激励があったことと思います。関わってくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、この子ども議会に臨んでいただきたいと思います。

皆さんと一緒にすばらしい松浦市をつくっていきたいと思います。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
(降壇)

日程第3 一般質問

を行います。

お手元に配付しております質問通告表によりまして、中学校ごとに順次登壇を願います。

質問要領につきましては、質問時間は答弁を含め、1中学校につき15分程度となっております。

また、質問方法は一問一答式となっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、質問順位に従い、鷹島中学校の1番・宮本議員、2番・松永議員、3番・大石議員の登壇を願います。

(宮本議員、松永議員、大石議員 一般質問席 登壇)

○ 1番(宮本琉希議員)

鷹島の未来のために、私たちにできることについてです。鷹島では、地域が発展していくためにどのようなことをすればよいか、私たちにできることはないかなど、子どもと大人が一緒になって、毎年、未来会議という話し合いの場を設けています。

鷹島のために、私たちにできることは、新たなPR方法を探り、地元のいいところを発信することだと考えました。ただ、それを実現するためには、私たち子どもだけでは難しい課題が出てきました。そこで、次の質問をします。

鷹島のPR方法についてです。鷹島中学校では、昨年まで3年生の修学旅行で鷹島のPR活動を行っていました。京都の商店街で、鷹島や松浦のお菓子、元寇の紙芝居などをして、鷹島や松浦の魅力を発信してい

ました。しかし、鷹島や松浦のことを知っていただいても、京都と鷹島ではかなりの距離があり、実際に来てもらうのは難しいと思います。福岡くらいの距離だとドライブなどで出かけてみようと思う方もいると思います。

そこで、私たちが福岡で鷹島のPR活動を行うために、移動にかかる費用を負担していただけないか質問します。併せて、その他、福岡事務所などに協力をいただき、私たちもPRに参加できる方法等がありましたら教えていただけないでしょうか。松浦市の交流人口拡大のためにも有効だと考えます。よろしくお願いいたします。

○ 教育総務課長(土谷由子君)

まずは、費用負担について、教育総務課からお答えをいたします。中学生の皆さんが市内外に向けて、暮らしている鷹島や松浦の魅力を発信し、交流人口拡大のため活動したいと考えておられることは、市としても大変頼もしく、実現に向けて協力をしたいというふうに考えております。

活動にかかる費用については、これまで活用していただいている、学校における総合学習推進事業として計画することで、費用の負担が軽減できます。まずは活動の目的、それから実施内容、かかる費用などについて、計画を詳しく聞かせていただきたいと思います。以上です。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

福岡事務所として協力できることについて、文化観光課からお答えいたします。

ご指摘のとおり、松浦市の交流人口の拡大のためには、福岡都市圏をターゲットとしてPRすることは有効だと考えております。

福岡事務所では、福岡都市圏において開催される様々なイベントへの参加のほか、市主催のイベントを福岡市内で実施することによって、本市の魅力を発信し、認知度向上と福岡都市圏からの誘客を図っています。

中学生の皆さんが福岡で行うPR活動については、福岡事務所を通じて効果的なイベントの情報を提供することは可能と考えておりますので、そのような形で支援ができればと考えております。

以上です。

○ 2番(松永悠聖議員)

地域おこし協力隊によるPR方法についてです。

松浦市では、令和7年度から外部人材の登用、地域おこし協力隊による専門職員を配置し、SNS等を活用した本市の魅力発信を行う予定とされています。具体的にどのようなことをされていますか。

また、私たちが鷹島や松浦のPR活動を考えた場合発信していただけるのでしょうか。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

令和7年度から外部人材、地域おこし協力隊の登用による専門職員を配置し、SNS等を活用した本市の魅力発信を行う予定です。

現時点では、配置する人材はまだ決まっていますが、配置後は「アジフライの聖地」の取り組みのほか、市内各地域を巡回しながら、外からの目線で松浦の新たな魅力を収集し、SNS等を活用して、その魅力を地域内外へ発信する役割を担います。

また、発見した資源と既存の資源を組み合わせた新たな観光コンテンツを企画してつくり上げ、そのコンテンツの魅力も発信をします。

皆さんの貴重なアイデアも取り入れながら、新たな目線で鷹島や松浦の魅力を発信していきたいと考えております。

以上です。

○ 3番(大石華議員)

鷹島の特産品を使った商品開発についてです。

松浦市のホームページでは、鷹島町の特産品として、いりこやまて焼酎、クロマグロ、阿翁石が掲載されています。多くの人が手に入れやすいものにするためには、加工した商品を開発することが必要だと考えます。

そこで、私たちが特産品を使った商品開発をする場合、企業との協働の場創出や製造の際の資金面について、松浦市に協力していただけるのか教えてください。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

鷹島町には、ご紹介頂いた特産品のほかにも、トラフグやアジフライ、長崎和牛など多くの特産品があります。多くの消費者の手に渡るためには、ご提案のと

おり、加工した商品をつくることも一つの手法であると考えております。

皆さんが考える地元の特産品を使った商品を実際に開発するには、企業などの協力が必要でありますので、協力を依頼されるにあたって、アイデアに応じた関連企業などをご紹介できればと考えております。

以上です。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

皆さんが考えた特産品を企業と協働をして販売できないか、その際の支援ができないかということについてお答えいたします。

特産品を活用した新商品開発は大切な取り組みであり、特産品のPRはもとより、新規顧客の創出や生産者の所得向上、地域産業の活性化にもつながります。

市では、ビジネスプランコンテストを開催し、新事業に取り組む意欲のある事業者を発掘し、事業化や事業者のサポートを行っていますが、このコンテストには、地域産業の活性化につながる実現可能性の高いアイデアを対象としたアイデア部門もあり、これまでも高校生や大学生からも応募があつています。

皆さんの自由な発想から生まれた開発アイデアを実現する一歩として、このコンテストの場も活用できるのではないかと思います。

また、資金面の支援としては、【がんばる中小企業応援補助金】という制度があり、新商品の開発や、販路拡大、生産性向上、デジタル化の促進などに取り組む市内事業者を支援しています。

今後、市内事業者が、先ほどのコンテストで皆さんが出されたアイデアに興味をもたれ、商品開発する機会があれば、【がんばる中小企業応援補助金】この制度が利用できると考えられますので、まずは、ぜひ皆さんもこのアイデア部門に応募してほしいと思います。

(降壇)

○ 3番(大石華議員)

鷹島の特産品を使った販売についてです。

特産品や新たに開発した商品などを販売する場合、販売する場所や手段が必要です。

道の駅以外にも、空き家の活用やネット通販、他県への出張販売等を考えた場合、松浦市として支援が可能なのか教えてください。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

地元企業の販売支援について、現在の取り組みについてお答えいたします。

商品を多くの消費者に知っていただくためには、県内、県外で開催される物産展でのPR販売や、ECサイトでの販売、ふるさと納税への出品等が考えられます。そのようなことから、市では、物産展への出展紹介やふるさと納税出品手続きの支援を行っています。

また、商品をスーパーや百貨店などのお店で販売してもらうためには、販売事業者などが集まる商談会や展示会などに出展し、商品を認めてもらう必要があります。意欲ある事業者に対しては、物産振興の取り組みの中で、商談会や展示会を紹介しております。

新たに開発した商品を販売する場合にも、このように、物産展や商談会を紹介するなど、支援が可能であると考えております。

以上です。

○ 3番(大石華議員)

今日は、鷹島の未来のために、私たちにできることについて丁寧に分かりやすく回答していただき、ありがとうございました。

私たちは鷹島町のさらなる発展を目指し、地域の方々とともに話し合いや様々な活動を行っています。その中で、改めて地元のよさについて考えた皆さんの魅力が詰まったまちだと気づきました。

魅力あふれる鷹島町をより多くの人に知っていただき、実際に足を運んでもらうことで、鷹島町だけでなく、松浦市全体が活気にあふれると考えています。

これからも私たちにできることを積極的に取り組んでいきたいです。

これで、鷹島中学校の一般質問を終わります。ありがとうございました。

(宮本議員、松永議員、大石議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって鷹島中学校の一般質問を終結いたします。

次に、質問順位に従い、今福中学校の4番・下村議員、5番・田代議員、6番・青木議員の登壇を願います。

(下村議員、田代議員、青木議員 一般質問席 登壇)

○ 4番(下村玲鳳議員)

私たちの住む松浦市は、海と山に囲まれた自然豊かな土地であることが最大のメリットだと思います。

一方、学ぶ場所、働く場所を求めて市外へ出て行く人も少なくありません。人口減少が松浦市の課題の一つであるということを耳にするたびに、どうにかならないものかと思っています。

市では、まちの活性化のために、「アジフライの聖地」を全国にアピールするなど、様々な取り組みをされており、最近では鷹島を「水中考古学の聖地」と銘打って観光アピールされていると伺っています。

今福町は鷹島汽船を利用した鷹島へのルートがあります。松浦市を訪れた観光客にとっては、陸地を回って橋を渡るよりも、最短ルートで島に渡ることができ、鷹島への訪問をしやすいと考えます。

訪問客が増えれば、それに伴って、設備や施設もよりよくなり、今回のテーマである、住み続けたいまちを実感できるまちづくりにつながるのではないかと思います。

そこで、「島」を絡めた観光、もしくは体験活動のさらなる集客率アップにつなげるための提案をするため、いくつか質問をさせていただきます。

現在、市内で行われている観光者向けの体験活動について、どのようなものがあるか、また、その受け入れ先や体験料について教えてください。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

観光者向けの体験メニューについて、体験型旅行事業を実施している一般社団法人まつうら党交流公社のメニューの中からお答えいたします。

船釣り、港釣り、魚さばき、アジフライづくり、田舎十割そば打ち、田舎豆腐作り、シーグラスアクセサリー作りなどの体験がございます。

まつうら党交流公社を窓口といたしまして、主に青島地区や田代地区で受け入れを行っています。

体験料はメニューによって様々ですが、例えば、「手ぶらでOK! 船釣り体験」は、中学生以上の大人料金で6,600円、味覚体験の「十割そば打ち体験」は、中学生以上の大人料金で、3,300円で体験ができます。

以上です。

○ 5 番(田代蒼空議員)

松浦市にはいくつか島があり、それぞれに観光スポットや体験活動などがあるわけですが、交通機関等の割引や体験料金等、島に行きやすくするための取り組みやありますか。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

現在、観光目的として、島に行くための交通機関の割引はありませんが、まつうら党交流公社の体験料金は、市外で行われている体験メニューと比べても低料金で設定されています。

島のことを知ってもらうための情報を発信するとともに、島でしか味わえない体験メニューを充実することで、島に来てもらうよう取り組んでいます。

以上です。

○ 5 番(田代蒼空議員)

現在取り組まれている「水中考古学の聖地」としての鷹島へ訪問客を増やすために、鷹島汽船を利用した観光ルートを提案します。

松浦市を訪れた観光客に、ぜひ鷹島にも興味を持ってもらい、誘導するために、例えば、鷹島観光・体験スタンプラリーのようなものをつくってはどうか。交通機関や体験活動、商業施設利用の割引券等も盛り込み、集めたスタンプの数や内容によって、松浦の特産物のプレゼント、もしくはホテルや旅館の宿泊費の割引などをします。

また、今福港に道の駅もしくは海の駅と称して、物産商業施設を建設すれば、それを求めてくる観光客も見込めるのではないのでしょうか。

以上の提案に対して回答をよろしくお願いします。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

松浦市を訪れた観光客に、鷹島に興味を持ってもらい、誘導するためのご提案を頂きました。

これまで「水中考古学の聖地」への誘客の取り組みとして、元寇（蒙古襲来）の歴史と食を活かした観光コンテンツづくりに取り組んでまいりました。

具体的には、令和4年から令和6年の3年間は、元寇の歴史にゆかりのある壱岐市、対馬市と松浦市が連携し、3市の特産品が当たる、3市合同のデジタルス

タンプラリーを開催し1,769人の方が参加されました。

鷹島をはじめ、今福では梶谷城跡など、市内数か所をスポットに設定し、市内の周遊観光につなげることができました。

また、鷹島汽船を活用した観光コンテンツとして、市が開発した【AR蒙古襲来】というアプリを活用し、フェリーに乗船することで、元寇の船が並走して走る様子を体現することができます。

松浦市に来て、初めて鷹島を知った人や、鷹島を知っている人が、実際に行ってみたいと思ってもらえるような仕掛けづくりはまだまだ必要だと考えております。

ご提案頂いた交通機関や体験活動、商業施設との連携のアイデアも参考にしながら、今後も引き続き情報発信や魅力あるコンテンツづくりに取り組んでいきたいと考えております。

また、物産商業施設の建設につきましては、農水産物の直売施設として、既に今福には「海の里」がありますので、今福に新たな道の駅を建設することは難しいかもしれませんが、既存施設と連携して誘客促進に努めてまいります。

以上です。

○ 6番(青木悠一議員)

現在、松浦市には、多くの子どもたちが遊べる公園がいくつかあります。以前に比べると小さい子どもたちが遊べるような遊具のある公園が増えたと思います。しかし、雨風の強い日、猛暑日は、屋外での遊びはとても厳しいものがあります。

もしも屋内で快適に遊べるような施設があれば、天候に左右されることなく、多くの人がのびのびと身体を動かして楽しむことができます。

そこで、室内で遊べるような大型施設について伺います。

現在、市内にある小中学生が利用できるような屋内施設の利用状況と、遊具や設備を今より充実させることについての可否について教えてください。

もしも、市が取り扱う施設のさらなる充実が難しいのであれば、屋内レジャー施設事業を取り扱う企業等を誘致するという事も考えられると思います。

市の今後の展望についても、併せてお聞かせいただけないでしょうか。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

お答えいたします。

現在、松浦市内には、全天候型の屋内施設はありません。

また、屋内施設ではございませんが、現在検討しているものとして、文化会館の駐車場のうち、西九州自動車道の桁下、道の下です。桁下を活用したアーバンスポーツ専用スペースの整備を計画しています。桁下を活用することによって、小雨程度であれば、使用可能ではないかと考えています。

現在想定している種目は、先日、市内の中学生及び松浦高校の生徒を対象に実施しました、スポーツに関するアンケートにおいて、取り組んでみたいアーバンスポーツの種目の中で、多くのご意見をいただいた、スケートボード、3×3バスケットボールの2種目を考えているところです。

また、現在、民間の事業者からのご提案を受け、志佐町にあります「海のふるさと館」隣接地に、全天候型の屋内遊戯施設を建設できないか検討している状況であります。

この桁下のアーバンスポーツ。ぜひ、市内各地から若い人、生徒さん、そして子どもたちに活用していただいて、賑わいをもたらせてくれればと思っています。

松浦文化会館の駐車場であれば、松浦鉄道も活用できますので、ぜひ皆さんに活用してほしいと思っています。

以上です。 (降壇)

○ 4番(下村玲鳳議員)

分かりやすい回答ありがとうございました。

松浦市に来てもらう人が増え、松浦市の魅力を知っていただけたら、より活気が出ると思い、提案させていただきました。

今後の松浦市への貢献のため、今福中学校生徒会では、地域活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

松浦市の今後一層の発展を願っています。

今回は貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

これで、今福中学校の一般質問を終わります。

(下村議員、田代議員、青木議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって今福中学校の一般質問を終結いたします。

ここでしばらく休憩をいたします。

午後1時35分 休憩



午後1時45分 再開

○ 議長(松下あんり議員)

再開いたします。

休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、質問順位に従い、調川中学校の7番・久保川議員、8番・村田議員、9番・三木議員の登壇を願います。

(久保川議員、村田議員、三木議員 一般質問席 登壇)

○ 7番(久保川愛菜議員)

松浦市の人口増加に関わる取り組みについて質問があります。

理由として、このまま松浦市の人口減少が進んでいくと、市全体の生産力も低下していき、私たちの住む松浦市がどんどん苦しくなっていきます。

私たちは多くの松浦の魅力を知っています。アジフライや数々の果物などの特産物、人を癒す力のある豊かな自然は、松浦が他の市に誇れる魅力であり財産だと思います。その魅力の生かし方を考えて、松浦市の人口減少を食い止める力になりたいと思っています。

そこで次の質問をします。松浦市の祭りの一体化についてです。

現在、松浦市で行われている祭りのうち、①水軍まつり、②鷹島モンゴルまつり、③福島土谷棚田の火祭り、④福島ふるさと祭り、の予算額と集客数について教えてください。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

市内で行われているお尋ねの祭りについては、それぞれ地域の方々や企業、団体の皆様によって実行委員会などが組織され、祭りを運営されています。

各実行委員会などでは、市からの補助金のほか、独

自に協賛金や募金を集めて予算を確保されておりますので、その総事業費を集客数とともに、令和6年度の実績でお答えいたします。

松浦水軍まつりは、主催はまつり実行委員会です。総事業費は987万8854円で、集客数は1万4000人です。

鷹島モンゴルまつりは、主催は鷹島モンゴルまつり実行委員会です。総事業費は165万7638円で、集客数は2000人です。

令和6年度の鷹島モンゴルまつりは、台風接近のためイベントが中止となり、地域の方を対象とした催し物のみ実施されたことから、集客数が少なくなっております。参考までに、令和5年度は5,000人の集客数となっています。

福島土谷棚田火祭りは、主催は福島おいどんが町づくり会です。総事業費は75万3816円で、集客数は550人です。

福島土谷棚田火祭りについても、令和6年度はイルミネーション点灯のみ実施されたことから、集客数が少なくなっています。

福島ふるさとまつりは、主催は福島町ふるさと祭り懇話会です。総事業費は341万588円で、集客数は4,000人です。

以上です。

○ 7番(久保川愛菜議員)

お聞きした内容から、祭りを一つにまとめ、予算を大きくして芸能人を呼んだり、ビンゴの景品を松浦の特産品で豪華にして、より多くの集客が見込めないかと考えましたが、可能ですか。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

ご提案のとおり、祭りを一つにして予算を大きくすることで、魅力のある祭りを実施することができるかもしれません。

現在、祭りは松浦地域、福島地域、鷹島地域で開催されており、それぞれの地域の特色を生かし、歴史や食文化などを通して、それぞれの地域の活性化を図るために内容を検討して実施されており、先ほどご説明しましたとおり、主催団体がそれぞれ異なっています。

地域の祭りとして、それぞれで開催する意義がある

と考えておりますので、市としては、今後も地域の方々の意向を尊重して、引き続き開催に向けての支援を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

○ 8番(村田一真議員)

不老山公園の土地を生かした取り組みについて質問します。

松浦の魅力である自然を生かした方策として、私たちは不老山公園を生かした取り組みを考えています。

そこで、現在の不老山公園の復旧状況及び再開予定について教えてください。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

不老山総合公園は、令和元年及び令和3年の集中豪雨により、不老山の山腹で2度にわたる大規模な地滑りが発生したことから、公園に向かう道路が通行できなくなっており、現在も閉園しています。

市民の皆様には、再開園を長らくお待ちいただきしており、大変ご迷惑をおかけしております。

不老山総合公園の再開園に向けては、令和7年3月までに、子ども広場の遊具施設、トイレの洋式化などの改修、四阿、ベンチ等の修繕を完了しております。

現在、長崎県の地すべり対策工事が継続して実施されており、合わせて、市道の復旧工事が行われている状況です。

現時点では、9月末に工事が完了する予定ということから、その後、電気設備などの点検や施設などの安全性の確認を行った後、再開園を予定しているところです。

以上です。

○ 8番(村田一真議員)

お聞きした内容から、不老山公園が使用可能になったら、キャンプ場を併設することや、バーベキューをできるようにするなど、恵まれた自然を生かして、さらに集客できるような取り組みをすることは可能ですか。

○ 文化観光課長(山口玲子君)

お答えいたします。

不老山総合公園は、市民の皆様が無料で利用できる施設として、多目的広場、子ども広場、バーベキュー

広場、展望台のほか、ツツジ園や花木園等を整備しています。再開園した際には、元々整備しているバーベキュー広場がございますので、そちらを利用することができます。

キャンプ場の併設につきましては、コロナ禍以降、多種多様なキャンプの需要が増えていることは認識しておりますが、現段階においては、不老山公園にキャンプ場を併設することは考えておりません。

不老山総合公園は、市内外から多くの方が訪れる誘客施設です。今は、安全安心にご利用いただけるよう、再開園の準備に向けて注力したいと考えております。

その後については、利用者のニーズを捉えながら、さらに集客できるような取り組みとして、ドッグランの整備など、施設の充実化を検討しているところです。

以上です。

○ 9番(三木幸輝議員)

市内のアピールポイントについて質問します。

現在、「アジフライの聖地」として、他の市に認知してもらっている松浦市ですが、アジフライの他にも市外へ売り出そうとしているものはありますか。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

お答えいたします。

現在、本市には日本全国から、また海外からもアジフライを食べに来ていただいております、テレビの全国放送で何度も取り上げられるなど、「アジフライ聖地松浦」として一定の認知を得ているところであります。

本市では、アジフライを含めた12品目の松浦市のこれぞという産品を【松浦の極み】としてブランド化しており、イベントのPRや商談会を実施し、認知度向上や販路拡大のための取り組みを行っております。

皆さんのお手元にあるこのパンフレットの中に記載されているとおり、アジフライ以外にも、アジそのものや、サバ、そしてサバの缶詰、トラフグ、青島かまぼこ、いりこ（煮干）、御厨ぶどう、そして松浦アールスメロン、松浦キンショーメロン、おさんじ、さらに石工品、こういった12品目を、【松浦の極み】としているところです。

さらに、今年度から、これらの商品に加え、他の地元産品についても、商品開発、販売体制の整備など、市内事業者が抱える課題を解決するためのコンサルテ

ィング事業を実施しております。

このような事業を通して、アジフライに次ぐ松浦の魅力的な産品を市外に売り出していきたいと考えているところです。

また本市は、「アジフライの聖地」とともに、「水中考古学の聖地」としての認知拡大にも取り組んでおり、元寇（蒙古襲来）の歴史を観光コンテンツ化してPRを行っています。

松浦市の魅力を多くの方に知ってもらうため、松浦にしかない食や歴史を様々な形で売り出しているところであります。

以上です。 (降壇)

○ 7番(久保川愛菜議員)

ありがとうございました。

今後、私たちはふるさと学習を通して、ふるさと松浦の魅力の生かし方について考えを巡らせていきます。

そして、自然や食べ物、その他多くの魅力が他地域に伝わり、今よりもっと観光客で賑わう松浦市が実現できたらいいと考えています。

以上で、調川中学校の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

(久保川議員、村田議員、三木議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって、調川中学校の一般質問を終結いたします。

次に、質問順位に従い、志佐中学校の10番・中尾議員、11番・中隈議員、12番・萩原議員の登壇を願います。

(中尾議員、中隈議員、萩原議員 一般質問席 登壇)

○ 10番(中尾颯希議員)

若年層の人口流出対策及び人口流入の取り組みについてです。

若者の人口流出は松浦のどの地域でも目立っており、令和2年度時点で松浦市の65歳以上の人口の割合37%に対し、35歳以下の人口は27%ほどしかおらず、令和2年度の時点で、少子高齢化が進んでいます。その後も人口減少に歯止めがきかない状態です。

少子高齢化が進む地域の問題として挙げられるの

が、生活サービスの低下や公共交通機関の不足、学校の統廃合や労働者不足などがあります。

志佐中学校では、事前に市役所の担当課の方々に質問をする中で、現在行われている人口流出対策などに着目しました。

人口流出対策をし、人口流入の取り組みをすることは、活気あふれる松浦を存続させていくためにも、喫緊の課題であると考えます。

質疑応答を繰り返す中で、私たちなりに、こういったことが実現できれば、若者が住み続けたいと実感できる松浦になっていくのではないかと考えました。そこで、質問及び提案をいたします。

若者の進路保障、高校の新設や大学キャンパスの誘致などについてです。

人口の多い佐世保市や長崎市のように、高校や大学が多く、進学できる幅が広がると、将来的に松浦に残ろうとする人が多くなると思います。そのため、松浦のよさである海洋資源や自然を生かし、魚などを研究する大学の研究所を設置したり、各大学の研究機関に、魅力ある地域資源、例えば鷹島の元寇関連の史跡やクルマエビ・トラフグの養殖技術をPRしたりして誘致活動を行い、各関係機関との関係づくりを進めていくのはどうでしょうか。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

お答えいたします。

松浦市では、地域への理解と愛着を育むことが、将来的に松浦に残ろうとする人を育てていくことになると考え、様々な取り組みを進めています。

特に、市内唯一の高校である松浦高校の魅力化については、重点的に支援を実施しております。松浦高校では、生徒が地域課題について調査・考察し、解決策を考える「マツナビ」という教育活動を通じて、生徒に地域の課題、魅力を再発見してもらうことで、ふるさとを大切に思い、その発展に貢献してもらうことにつながっています。

また、松浦高校では、大学との連携支援も積極的に実施されており、昨年は松浦市内の企業である、日本遠洋旋網漁業協同組合(エンマキ)と東京大学農学部国際水産開発学研究室の学生と交流し、今年度は、慶応大学や明治大学の学生との交流を予定するなど、都

市部の大学との交流も、松浦市内の高校にしながら行う機会を得ています。

こういった取り組みとともに、ご提案にあるような水中遺跡や水産業をはじめ、さらに多くの地域資源のPRを行い、活用を図っていくことで、様々な機関と連携し、松浦で多種多様な学びを得る機会を広げていきたいと考えています。

研究機関の誘致という点では、現在、松浦市の地域資源として、海底遺跡では日本初の国指定史跡となった「鷹島神崎遺跡」について、水中遺跡保護に関する研究を行うため、専門調査研究機関を松浦市に設置するよう働きかけを行っているところです。(降壇)

○ 11番(中隈一翔議員)

創業支援のPRについてです。

創業支援制度の内容は、起業したい人にとって、とてもいいような内容だと思います。また、インターシップも働きたい人にとって欠かせない制度だと考えます。

一方で、「アジフライの聖地」として全国的な知名度が上がっているといえど、松浦市で取り組まれている創業支援制度を知らない人も多いと思います。

そこで、SNSや企業との連携、地元メディアなど、様々な方法での宣伝に加えて、現在、松浦市観光大使の岩佐一也さんなど、有名人とコラボレーションを積極的に図り、就業面でのPRを活性化していくのはどうでしょうか。

○ 産業振興課長(松崎秀幸君)

お答えいたします。

初めに、ご紹介いただきました、本市の創業支援の内容についてご説明させていただきます。

経営には、法律や税務、資金繰りなど、様々な知識が求められます。特に、創業前や創業直後の場合、「創業を考えているけれど何から始めてよいのか分からない」「創業したけど今の状態のままでよいのか分からない」など、多岐にわたる悩みを抱えられているケースが多く見受けられます。

このようなことを踏まえ、市では商工会議所や商工会、金融機関などの関係機関と連携した上で、創業に関する幅広い相談への対応や、段階に応じた支援として、「創業塾」などを開催しており、その成果として、

令和6年度におきましては11人の方の創業につながったところでございます。

今回のご提案にございます、就業面ということにつきましては、既に就職している方であれば、働きやすい職場環境であったり、これから就職される方の場合は、魅力的な企業があること、また、一例として挙げいただきました、新たに創業する場合の支援が充実していることなど、人が働くための環境面の全般を指しておられるものと思いますが、これらも含め、ほかの自治体にはない本市の魅力について、市民の皆様にはもちろんのこと、広域的かつ効果的に情報発信することは大変重要なことであると考えております。

ご提案いただきました有名人とのコラボレーションによる情報発信というのも、一つの手段であり、そのようなアイデアも含め、より効果的な情報発信の方法について検討してまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○ 12番(萩原慧議員)

ふるさと教育の充実についてです。

ふるさと教育では、学校での総合的な学習の時間などを使って、松浦について深く調べることはできていますが、地域の魅力を調べ、発表するだけに終わっており、行動に移せていないように感じます。

「鷹島神崎遺跡」については、体験する機会が多いですが、それ以外にも、現地に赴いて、実際に水産教室などの体験活動を実施するなど、ふるさと教育の中に、今までより多くの体験活動を取り入れるのはどうでしょうか。

○ 学校教育課長(佐藤利枝君)

ふるさと教育の充実についてお答えします。

ふるさと教育に体験活動を取り入れることは、ふるさとをより深く知り、郷土愛を育むためにも、とても有効だと思っています。

松浦市教育委員会では、松浦市教育振興基本計画、これをつくっておりますが、その計画の中でも、ふるさと教育の充実について示しています。各学校に対しても、体験活動の重要性を伝え、積極的に取り入れるように話をしています。

各小中学校においては、総合的な学習の時間、社会

科、特別活動、生活科などで体験活動に取り組んでいます。例を挙げますと、ヤマメ釣りをして釣ったヤマメを調理して、命について学ぶ体験活動。まつうら党交流公社のご指導のもと、味覚体験としてヨモギ餅づくりや、押しずしづくりを学ぶ。ふるさとを愛する気持ちを育てることにもつながる海岸清掃を行うなど、様々ございます。

今後も、地域ぐるみで展開するふるさと教育、体験活動を充実させ、ふるさとの誇りや郷土愛を育むとともに、ふるさと松浦を主体的に支える人材の育成に努めてまいります。

以上です。

○ 12番(萩原慧議員)

新しい仕事や松浦の魅力の創設についてです。

松浦の魅力である山村資源や海洋資源の豊かさを生かし、農業・漁業体験と一体となった滞在型の観光を展開することで、外部の方々から松浦の自然の魅力に気づいてもらえる機会となると考えます。松浦の一種のアクティビティーとなり、移住者の拡大を狙えると考えますが、いかがでしょうか。

○ 政策企画課長(山口武君)

お答えいたします。

松浦市では、農漁村での体験や民泊を通じて、県外から訪れる方々に、地域の魅力と人のつながりを伝える体験型旅行事業が行われております。

この事業は、地域の有志により、2002年にスタートし、2009年に法人化された一般社団法人まつうら党交流公社が運営しております。これまで全国から約30万人以上を受け入れてきました。

松浦を体験し、松浦を知ってもらうこの取り組みは、議員ご指摘のとおり、移住者の拡大につながる有効な手立てであると考えております。

2024年度、令和6年度は、約7,600人の受け入れを行った事業ですが、高齢化に伴い、体験や民泊の担い手減少という課題もございますので、継続した活動の実施と魅力的な事業提供につながる支援を実施していきます、こういう取り組みを通じて、移住定住の促進につなげてまいりたいと考えております。

以上です。

○ 10番(中尾颯希議員)

ありがとうございました。

今回の答弁の内容を踏まえ、人の人とのつながりが深まり、松浦がより活気あふれるまちとなるよう再度提案について考え、実現に向けて活動していきたいです。

以上で志佐中学校の一般質問を終わります。

(中尾議員、中隈議員、萩原議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって志佐中学校の一般質問を終結いたします。

ここでしばらく休憩いたします。

午後2時03分 休憩



午後2時25分 再開

○ 議長(松下あんり議員)

再開いたします。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

それでは質問順位に従い、青島中学校の13番・上場議員、14番・桝屋議員、15番・川上議員の登壇を願います。

(上場議員、桝屋議員、川上議員 一般質問席 登壇)

○ 13番(上場汐央里議員)

私たちは、定期船欠航時の対応について質問と提案をします。

青島には定期船欠航時に困っている現状が2つあります。1つは、欠航時は、医師の診療を受けたり、常用薬を処方してもらったりすることができないことです。青島には診療所はありますが、医師に診てもらえるのは、毎週、火・金曜日の午後のみです。その日に定期船が欠航する可能性を考えると、青島では健康に生活できる暮らしが保障されていないと感じます。

もう1つは、災害時や緊急時の対応についてです。

災害時やフェリー欠航が続いた場合、どのような支援が受けられるのか、また、商店が1つしかない島で、どのように食料や日用品を手に入ればいいのか分らず心配です。

昨年度、台風で避難所が開設されたとき、市役所の人が青島に来られるということはありませんでした。この現状を踏まえると、災害時や緊急時に関係機関から早急な支援を受けられるのか不安です。

定期船欠航時の医療体制について質問します。

定期船欠航時の医療に関する対応と、災害時や緊急時の対応について具体的に教えてください。

また、令和4年度の子ども議会後の進捗状況では、松浦中央病院で夜間の救急搬送の受け入れが可能になり、救急患者の搬送が可能な交通船の導入を計画しているとの回答でしたが、交通船の導入計画は現在どのようなになっているか教えてください。

以上です。

○ 消防本部次長(富野俊浩君)

お答えします。

定期船欠航時の青島地域における災害や緊急時の対応についてご説明いたします。

救急等の緊急時は、地域の皆様のご協力により、昼夜間を問わず交通船や漁船にて御厨港まで搬送していただき、そこから救急隊が引き継ぎ、医療機関へ搬送しております。

令和4年から令和6年までの青島地域からの漁船による搬送件数については、令和4年は7件、うち夜間3件、令和5年は7件、うち夜間4件、令和6年は3件、うち、夜間1件となっております。

また、漁船以外にもドクターヘリを要請し、救急患者を搬送しております。

火災や災害時の初動については、地元消防団が対応して対応しますが、規模や状況により、消防本部及び消防団から必要な人員と資器材を派遣して対応することとしております。

以上です。

○ 防災課長(福守剛君)

防災課からは、災害に備えた避難所についてお答えをいたします。

大雨や台風接近による災害に備えた避難所については、市職員を配置した公設避難所を市内8か所に開設をしております。

青島地区の近隣の公設避難所としては、御厨小学校と星鹿公民館を開設しており、早めに公設避難所への避難をお願いしたいと考えておりますが、定期船欠航等で公設避難所への避難が困難な場合は、松浦市の地域防災計画の中で、災害の危険性がなくなるまで一時的に滞在する施設として、青島住民センターと青

島小中学校を指定避難所として指定をしておりますので、住民の方はそちらに自主避難をお願いしたいと考えております。

なお、青島小中学校を避難所として利用される場合の対応といたしまして、先日、青島小中学校の校長先生と青島地区の区長さん及び防災課で話し合いの場を持ちまして、台風や大雨や台風接近時に住民の方が避難所として学校施設を利用する際の取り決めや、利用できるスペースなどの確認を行ったところでございます。

また、自主避難の際には、青島地区の自治会、消防団及び自主防災組織と連携され、避難所の運営に御協力いただきたいと考えております。

以上でございます。

○ 健康ほけん課長(浜崎孝裕君)

医療に関する対応につきましてお答えいたします。

欠航による青島診療所の休診につきましては、令和7年1月の終わりから2月初めにかけまして3回発生しております。また、祝日による休診も加わったため、島民の方から薬が不足したなどの御連絡をいただいたところでございます。

欠航による医薬品の不足の問題につきましては、青島に限らず飛島や黒島にも関わることでございますので、島民の皆様には、欠航しやすい時期には早めに受診されたり、欠航していないときに、本土の病院を受診されるといったことを心がけていただくことが大切なのではないかと考えております。

以上でございます。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

私からは、交通船の導入計画についてお答えいたします。

交通船の導入計画につきましては、松浦市地域公共交通計画に基づき、新船舶の導入を検討しており、現在、青島地区役員及び交通船関係者の皆様と、交通船の規模や能力、対応できる造船所など、必要な情報を共有しながら、協議を進めているところでございます。

こういった協議が整い次第、できるだけ早く交通船が導入できるよう、今後とも取り組んでまいります。

(降壇)

○ 14番(梶屋晶華莉議員)

次に、ドローンの活用について質問します。

令和7年4月30日付で政策企画課企画統計係から青島地区に「新スマート物流事業終了のご案内」が配布されました。その文書の中に、「引き続き、この事業で得た離島への配送モデル、離島への配送ルートなどを活用する手法を検討していきたい」と書いてあります。

今後の具体的な見通しと進捗状況を教えてください。

以上です。

○ 政策企画課長(山口武君)

お答えいたします。

ドローンを活用した配送につきましては、現在の機体の性能、配送業者の実情等から、現段階で採算性のとれる事業継続は難しいとの判断に至りました。

松浦市において青島、飛島、黒島の人口規模に対応したドローン配送を、一定の採算性を持って実施していくためには、機体の飛行距離、積載量、天候に左右されずに飛ぶ性能など技術の進歩や、新しい社会インフラの整備等が進むことで、実現に近づいていくものと考えております。

4月末以降、近隣のドローン事業者、ドローンによる物流事業を実施したいと考えている事業者、2事業者の取り組みを聞き、意見交換を実施いたしました。

また、先月の7月4日には、ドローン活用の最新情報、ドローン関係の法規制等について学ぶ、職員向け研修会を開催したところです。研修会には、デジタルスキルで地域の課題解決を目指すDXハイスクールに取り組んでいる、松浦高校生の参加もあったところで

す。

このようなドローン活用における人材の育成、長崎県が進めているオンライン診療での医薬品配送の進展を見据えながら、実用化ができたときには、速やかに導入できるよう、引き続き検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○ 15番(川上杏莉議員)

最後に、定期船欠航時の支援策について提案をします。

ドローンの試運転がなされて以降、島民の方々は、

「暮らしやすくなる」と、とても楽しみに待たれており、その声が学校にまで届いてきています。

青島は高齢者の割合が高く、漁業従事者など島内で働いている方も多いため、島外に出ることが難しい方もいらっしゃると思います。オンライン診療やドローンの活用で島外とのつながりをつくることで、離島者の減少や移住者の増加が期待でき、住み続けたいを実感できる島になると考えます。

青島の地域住民センターなどを活用し、オンライン診療を受けられるようにしたり、ドローンを活用して、薬や食料品、日用品などの物資を届けられるようにしたりできる体制をつくるのはいかがでしょうか。

以上です。

○ 健康ほけん課長(浜崎孝裕君)

まずはオンライン診療につきましてお答えいたします。

オンライン診療につきましては、健康ほけん課におきましても、青島住民センターに器材を設置して実施できないかと考えております。

しかしながら、市内におきましては、現在オンライン診療を実施されている医療機関がなく、また、高齢者などの受診をサポートする人材の確保などの問題があり、青島の方々に適したオンライン診療の在り方を考えているところでございます。

また、オンライン診療は、青島に限らず、飛島や黒島もその対象にしなければならないと考えております。

長崎県全体の動きとしましては、県が、五島・壱岐・対馬の公立診療所を対象としたオンライン診療や、巡回診療車の導入等に関する協議会を設置する予定と伺っております。

本市といたしましては、この協議会の設置後の内容や、オンライン診療の先進地についての情報収集をしながら、松浦市の離島におけるオンライン診療の早期実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○政策企画課長(山口武君)

ドローンの活用に係る部分についてお答えいたします。

ドローンを活用した配送につきましては、令和5年に実証実験を行い、事前のニーズ調査、採算性の試算

をもとに、昨年事業を行いました。1年間の実施により、現在の機体の性能、配送業者の実情等から、現段階で採算性のとれる事業継続は難しいとの判断に至りました。

ドローン技術は近年目覚ましい進歩を遂げておりまして、様々な分野での活動が広がっております。機体の飛行距離、積載量、天候に左右されずに飛ぶ性能等、技術の進歩を確認しながら、先ほど申し上げました、オンライン診療等での活用について、引き続き検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○ 13番(上場汐央里議員)

本日は、フェリー欠航時の対応について分かりやすく丁寧に回答していただき、ありがとうございました。

私たちは青島の自然・伝統を大切にしています。青島の人も、これから来島してくださる人も、みんなでこの青島を大切にし、発展させていきたいと思っています。そうすれば、未来の青島もきっとたくさんの人々の笑顔であふれていることだと思います。

青島中学校は全校生徒4人という小さな学校ですが、一人一人の力を合わせれば大きな力になります。

これからも住みよい青島にしていくために協力して活動していきます。

これで、青島中学校の一般質問を終わります。ありがとうございました。

(上場議員、桝屋議員、川上議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって、青島中の一般質問を終結いたします。

次に、質問順位に従い、御厨中学校の16番・前田議員、17番・内野議員の登壇を願います。

(前田議員、内野議員 一般質問席 登壇)

○16番(前田悠貴議員)

私たちは、本議会のテーマである住み続けたいまちづくりについて考えました。どんな松浦市であってほしいか、若者である私たち学生だけでなく、松浦市に住む1人一人がどんなまちに住みたいと感じるのかを考えました。

若者にとって魅力的な環境づくり、高齢化が進む中での医療・福祉サービスの充実、またコミュニティーの活性化などが大切だと感じました。

そこで、次の質問をします。

松浦市の人口減少の推移についてです。過去 10 年間の松浦市における人口減少の推移、現状について具体的に教えてください。

○ 政策企画課長(山口武君)

お答えいたします。

日本の人口や世帯の実態を明らかにするための重要な統計調査である国勢調査において、松浦市の人口は、10 年前の 2015 年では、23,309 人でした。5 年前の 2020 年では 21,271 人となっておりまして、10 年前と 5 年前を比較すると、5 年間で 2,038 人の減。年間平均で約 400 人の人口が減少している状況となっております。

なお、国勢調査は 5 年ごとに実施されますので、今年が実施の年となっております、10 月に実施予定となっております。

以上です。

○ 17 番(内野真優議員)

人口減少に対する取り組みについて質問します。

人口減少を止めることは簡単なことではありませんが、今現在、松浦市として人口減少に対してどのような取り組みを行っているのか教えていただきたいです。

また、取り組みをしていく中で、1 番効果があるのではないかと感じられたものを教えていただきたいです。

○ 政策企画課長(山口武君)

お答えいたします。

松浦市では、人口減少に歯止めをかけ、持続可能な社会の実現に向けて、「松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定め、様々な取り組みを進めてきました。

その中で、年間交流人口数の増、一人あたりの観光消費額の伸びなどは、目標以上の成果を得ており、これは、「アジフライの聖地」の取り組みによる効果であると認識しております。

「アジフライの聖地」の取り組みについては、昨年、経済波及効果の分析を行いました。その結果、令和 5 年、1 年間での経済波及効果は 30 億円を超えると算定されております。その生産はアジフライの加工販売だけでなく、原材料などの取引を通じて、関連するほか

の産業にも波及します。

これらの生産活動の結果生じる雇用者所得は、消費支出として新たな事業を生み出し、さらなる生産の誘発、雇用創出を生み、人口減少対策として効果があるものと考えられます。

また、働く場の確保という点では、地場企業の投資拡大と、新しい企業の誘致のため、御厨町大崎地域に仮称でございますが、松浦市西部工業団地を造成しているところでございます。

以上です。

○ 16 番(前田悠貴議員)

松浦市のイベントの開催について提案します。

私たちは、人口が減少している松浦市において、現在住んでいる人とそうでない人、どちらも対象にしたイベントが必要だと考えます。

そこで松浦市の PR として、自然豊かな松浦市を生かしたイベントを開催することについて考えました。例えば、松浦マーケットが開催されているビーチクリーンイベントを拡大させさせたり、松浦の特産物などを出店させ食べながら歩くウォークラリーを開催したりすることはいかがでしょうか。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

お答えいたします。

本市では、人口減少対策の一つとして、交流人口の拡大に向けた施策に取り組んでいます。

ご提案のイベントについては、交流人口の拡大に大変効果のあるものではないかと考えます。松浦マーケットのビーチクリーンにつきましては、団体でのボランティア活動として、毎月第 1 日曜日に市内の海水浴場の清掃を実施されております。

本市では、伊万里湾環境保全対策協議会の活動の一つである伊万里湾一斉清掃活動を毎年実施しており、令和 5 年度は、N I B 長崎国際テレビとの共同開催により、大崎海水浴場で「スポGOMI」の取り組みを行いました。

令和 6 年度はぎざが浜海水浴場、これは今福ですが、こちらで実施し、今年度も市内の海岸で予定をしています。

加えて、来年度は、この伊万里湾環境保全対策協議会の構成市である、伊万里市、唐津市、松浦市合同で

清掃イベントを松浦市内の海岸で予定をしており、そこには様々な出店についても検討しているところです。

また、福島町には、韓国済州島発祥のトレッキングであるオルレのコースを設定しており、このコースを活用したイベントを年に2回開催しております。このイベントでは、コースの途中で松浦市の食材を使用した軽食や郷土料理を提供したり、特産品を販売したりしています。

ご提案のウォークラリーのイメージとは異なるかもしれませんが、美しい眺望や食を楽しみながら松浦の自然を満喫できるこのオルレイベントは、市内外から多くの方に参加いただいております。

引き続き、これらの情報発信に努め、住んでいる人にもそうでない人にも、どちらも参加していただけるようなイベントに取り組んでまいります。（降壇）

○ 17 番(内野真優議員)

若者やお年寄りがつながるイベントの開催について提案します。

最近では、地域とのつながりが薄くなっているように感じます。若者からお年寄りまでみんながつながることで、まち全体が明るく温かくなるのではないかと感じました。

そこで、夏休みに小学生・中学生などが参加する学習会や、お年寄りの方でも参加できるニュースポーツを使ったイベントが公民館でできたらと思いますがいかがでしょうか。

○ 政策企画課長(山口武君)

お答えいたします。

本市では、「育つ・つながる・根をおろす」を基本理念とする松浦市総合計画に基づきまして、小学校区単位の協働によるまちづくりを進めております。

御厨地域では、本年4月26日に「御厨地域まちづくり運営協議会『よかまち みくりや』」が設立されました。

御厨地域のまちづくり計画では、三世代で交流できる場所として、「うみのかぜ公園の有効活用」、内容として各種イベント等が挙げられておりまして、先日の「松浦港緑地(うみのかぜ公園)完成記念事業」では、イベントを共催し、中学生や高校生と一緒にブース出展などが行われました。

今後も、各地域のまちづくり運営協議会の取り組みに、世代を超えて多くの皆さんに参画していただきたいと考えております。

以上です。

○ 16 番(前田悠貴議員)

今回の答弁をお聞きして、人口減少に対する市の取り組みや現状を知ることができました。このような、住み続けたいまちづくりについて考える機会ができてよかったです。

また、先月は御厨町の「うみのかぜ公園完成記念イベント」が開催され、大盛況でした。こういったイベントごとに、松浦市民全体で盛り上げていけたらいいなど感じました。

以上で、御厨中学校の一般質問を終わります。ありがとうございました。

(前田議員、内野議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって、御厨中学校の一般質問を終結いたします。

ここでしばらく休憩いたします。

午後2時59分 休憩



午後3時15分 再開

再開いたします。休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、質問順位に従い、福島中学校の18番・渡邊議員、19番・脇山議員、20番・末安議員の登壇を願います。

(渡邊議員、脇山議員、末安議員 一般質問席 登壇)

○ 18 番(渡邊果歩議員)

私たちは福島町の建物や公衆トイレについて質問します。

現在、松浦市全体の人口は減少傾向にあります。福島町も例外ではありません。私たちは福島町がもっと住みやすいまちになれば、福島町に人を呼び込めたり仕事生まれたりと、地元が活性化することで、松浦市全体の活性化になると考えます。

そのためには、今いる人たちが住みよいまちと思ってもらわなければなりません。

特に公衆トイレは、私たちもきれいに使うよう努力をしていますが、なかなかきれいになつたり、使いや

すくなくなったりしていないと感じます。支所や消防などの公共施設についても老朽化が進んでいると感じます。

そこで質問をします。

今後、福島町の支所や消防などの公共施設、ふれあい広場や日の浦グラウンドにある公衆トイレが老朽化していく中で、そのような建物の整備や施設の修繕の用途は立っていますか。

○ 市長(友田吉泰君) (登壇)

お答えします。

福島町の建物の老朽化の改善についてお答えをいたします。

福島町にある公共施設は、昭和の終わりから平成の初めにかけて建設され、築後 40 年前後を経過している施設が多くあります。

その中でも、昭和 33 年建築の市役所福島支所、昭和 42 年建築の福島公民館、昭和 48 年建築の消防署福島出張所は、いずれも老朽化が進んでいます。

松浦市はホームページに公表しております公共施設等総合管理計画に沿って、公共施設などの建設や改修などを計画的に進めており、その中で、今申し上げた三つの施設を一緒にした福島地域複合機能庁舎の建設を計画しています。

現在、旧福島小学校の跡地に、この三つの施設を一体化した庁舎を建設する準備のための地形測量調査を行っています。

そして、今年度中には、土地の状態を詳しく調べる地質調査と建物を設計する業務に取りかかり、それらが終わった後に建築工事を着工し、令和 10 年度末までに完成させることを目標としています。

次に、ふれあい広場や日の浦のグラウンドにある公衆トイレの整備や修繕についてであります。ふれあい広場については、憩いの場として多くの皆さんに利用していただいていますので、トイレについても快適に利用いただけるよう、状況を確認しながら、引き続き維持に努めてまいります。

日の浦グラウンドの公衆トイレについては、長崎県の所有でありますので、利用される方が不快に感じられ感じないように、修繕等を含め改善できるように長崎県にお伝えしてまいります。

また、前回の子ども議会の中で、公共施設の管理状

況について質問をいただき、答弁をしておりますが、その中で、マナーを守って利用していただくように、当時の福島中学校生徒会にお願いして、トイレ利用のマナーポスターを作成していただき、公共トイレに張って啓発をさせていただいています。改めてご協力いただいた生徒会に感謝いたしますとともに、これからもご協力をお願いしたいと思います。(降壇)

○ 19 番(脇山那菜議員)

令和 4 年度の子ども議会で、福島町のスーパーなどのお店について質問させていただきました。

その中で、現状として、遠くまで買い物に行けない人が不便なため、空き家などを活用したお店をつくることについて提案をさせていただきました。そして、毎週土曜日の午前中に農産物の販売をし、販売商品や開店日についても増やしていく予定であると回答していただきました。

しかし、現在は福島町唯一のスーパーであった A コープもなくなってしまい、農産物販売は行われているものの、品数が豊富とは言えず、さらに不便になっております。

今後福島町にスーパーの施設が建設されることはありますか。福島町も高齢化が進み、買い物に行きたくても行けない人がさらに増えている状況です。

さらに、近くに福島診療所がありますが、小児科や入院施設がありません。そのため高度医療を受けるとなると、伊万里市など遠方の大きな医療機関に行かなければなりません。

そこで、福島診療所について、今後、施設設備を充実させていく予定があるのかを併せて質問したいと思います。

○ 政策企画課長(山口武君)

まず、スーパーの建設にかかる部分についてお答えいたします。

福島地域唯一のスーパーでありました A コープにつきましては、先ほどご質問の内容にあったとおり閉店されており、その後の空き店舗の利用や、他の場所におけるスーパーなどの施設建設という動きは把握できておりません。

現在、市では、ともに考え、学び、行動していく小学校区を対象とした協働によるまちづくりを進めてお

りまして、福島地域においても、本年6月29日に「福島地域まちづくり運営協議会」が設立されました。会においては、今後の福島地域の活性化のために、生活用品等の買い物ができる店が少ないという課題が挙げられており、解決に向け、若者の出店支援を行っていくということを取り組みの一つに掲げられておりますので、課題解決の実現に向け取り組んでいただければと思っております。

また、市としても、地域住民が一体となって取り組める環境づくりについて、引き続き支援していきたいと考えております。

以上です。

○ 健康ほけん課長(浜崎孝裕君)

福島診療所につきまして、お答えいたします。

福島診療所の診療科目は、主に内科と外科であり、常勤医師1名が診療を行っております。

また、ほかの医療機関から専門医師の派遣を受けまして、毎週金曜日午前中に消化器内科、月1回午前中に整形外科及び循環器内科の診療を行っております。

ご質問の小児科につきましては、専門ではありませんが、けがの対応やワクチンの接種などを行っております。

また、入院につきましては、ご指摘のとおり、現在できない状況であります。

近年、人口減少に伴う患者の減により、大規模医療機関であっても、閉院が相次ぎ、医師や看護師も不足するなど、どの医療機関も経営が厳しい状況にある中で、小児科の設置、高度医療や入院への対応は困難な状況でございます。

このようなことから、福島診療所は、福島地域皆様の「かかりつけ医」として、地域の医療を担うとともに、必要に応じて専門的な医療機関への紹介等を行っております。

また、福島診療所では、介護が必要な方を対象に、運動機能向上と自立した生活を送ることを目的としたリハビリテーションや、認知症で自宅での生活が困難な方の共同生活の場も提供しております。

今後とも、医療と介護の両面で福島地域皆様のお役に立ちたいと思っております。

以上でございます。

○ 20番(末安陽奈乃議員)

松浦市の教育設備について質問します。

学校で生活する私たち中学生は、勉強しいろいろなことを学んでいます。

学校設備がうまく機能しないと授業が遅れてしまいます。松浦市の子どもたちが、将来の松浦市を担うためにも、よりよい教育がよりよい松浦市の未来につながると考えます。

そこで、次のような質問、提案をします。

福島中学校の電子黒板用パソコンの調子がよくありません。松浦市のこのような設備の修繕等はどのように計画・実施をされていますか。

また、私たちが学校のパソコン機器についてもっと大切に扱うために、松浦市のパソコン担当の方と、先生や私たち松浦市の生徒を対象として、リモートで改善方法や学校のパソコン機器についてお話をさせていただき、松浦市全体でChromeb ook やパソコン機器に対しての知見を広めるという活動はどうでしょうか。

○ 教育総務課長(土谷由子君)

松浦市の教育については、「第3期松浦市教育振興基本計画」をつくり、学校や生涯学習、文化財など各分野における目標への対策を掲げて取り組んでおります。

この計画に沿って、学校のICT環境の整備事業についても、目標を定めて機器のリニューアルを計画し、予算を確保して事業を実施しています。

電子黒板用パソコンの調子がよくないということですが、電子黒板導入から8年、タブレット導入から5年が経過して、多くの機器で修繕不能や故障が出ていることから、今年から来年度まで2年をかけまして、電子黒板の不足分を補充したり、電子黒板用のノートパソコンや、児童生徒用のタブレットを新しい機器と入れ替えたりするよう計画しています。

なお、本年度は、児童生徒用タブレットは9月末までに、電子黒板や電子黒板用のノートパソコンは3月末までに補充をすることとしております。

パソコン機器をはじめ、学校の施設や設備について、大切に扱いたいという皆さんの気持ちはとても嬉しく、

故障等が発生しないように丁寧に取り扱っていただきたいと思います。

また、ICT機器に関する知見を深めていただく活動に関しても、ぜひ協力したいと考えています。どのようなことを知りたいのか、学びたいのか教えていただき対応したいと考えています。

以上です。

○ 20 番(末安陽奈乃議員)

ありがとうございました。

今の福島は住み続けたいと思う人が少ないけれど、1人でも多くの人が福島に残ってほしいと思います。

そのためにも、福島が暮らしやすいまちになるよう、松浦市に支援をしていただけると嬉しいです。

私たちは福島町の将来の担い手の1人として、まちづくりに可能な範囲で貢献・参画していき、私たち世代が、10年後も20年後も住み続けたいと思うようなまちづくりを実現したいです。

以上で福島中学校の一般質問を終わります。

(渡邊議員、脇山議員、末安議員 一般質問席 降壇)

○ 議長(松下あんり議員)

以上をもって、福島中学校の一般質問を終結いたします。

次に、議員提出議案の上程、説明、審議を行います。

日程第4 議員提出議案の第1号 ふるさと松浦のまちづくりをともに考える決議について

を議題とし、提案理由等について提出者の説明を求めます。

○ 18 番(渡邊果歩議員) (登壇)

福島中学校の渡邊果歩です。

子ども議会議員を代表して、議員提出議案第1号について御説明いたします。

議員提出議案第1号

令和7年8月1日

松浦市子ども議会議長 松下 あんり 様

提出者 子ども議会議員 渡 邊 果 歩

賛成者 同 前 田 悠 貴

同 上 場 汐央里

同 中 尾 颯 希

同 久保川 愛 菜

同 下 村 玲 鳳

同 宮 本 琉 希

ふるさと松浦のまちづくりを

ともに考える決議について

お手元に配付しております決議文の朗読をもって提案理由の説明にかえさせていただきます。

この度、私たちは、「松浦市子ども議会」に参会し、改めて自分たちが住んでいる地域や松浦市全体のことを考える機会を得ました。

質問は、各校それぞれが話し合いを重ねた上で決めた内容で、人口減少対策や観光資源の有効活用、及び新たなPRなどの地域活性化から、施設設備の充実、医療サービス、災害時対応等の社会資本の整備など広い範囲に及びました。どれも私たちの生活に密着していることばかりで改めて松浦市の課題に気づくとともに、魅力について振り返ることができました。

松浦市は自然が豊かで歴史や伝統のあるすばらしい私たちのふるさとです。私たちは、今回の貴重な体験を生かし、まちづくりを他人事とせず、将来のまちづくりの担い手として、これからのまちづくりについて、仲間とともに考え、皆様とともにふるさと松浦をつくるために取り組んでいきたいと思います。

以上、決議します。

令和7年8月1日

松 浦 市 子 ども 議 会
(渡邊議員 降壇)

○議長(松下あんり議員)

提出者の説明が終わりました。

日程第4 議員提出議案第1号は質疑及び討論を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議員提出議案第1号については質疑及び討論を省略することに決しました。

これより日程第4 議員提出議案第1号「ふるさと松浦のまちづくりをともに考える決議について」を採決いたします。

議員提出議案第1号について原案のとおり決するに賛成諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

起立全員であります。よって、議員提出議案第1号

「ふるさと松浦のまちづくりをともに考える決議について」は、原案のとおり可決されました。

ここで、教育長から発言の申出がっておりますので、これを許可します。

○ 教育長(黒川政信君) (登壇)

講評を行います。

子ども議員の皆さん、お疲れさまでした。

議長を務めた福島中学校 松下あんり議員、御苦労さまでした。

各中学校においては、子ども議会に対して、子ども議員の選出や、質問の内容など、十分に対応していただきありがとうございました。

子ども議員の皆さんは、ふるさとである松浦市を、住み続けたいを実感できる松浦市にするために、一生懸命に考え、堂々とした態度で質問をしていました。見ていてとても頼もしく感じました。

質問の内容も、自分たちの暮らしや、学習に関わることや、地域との結びつきや、人口問題などに目を向け、課題を見つけ、自分なりの考えを述べながら、今後さらに、魅力のあるまちにするために大切なこと、必要なことを提案していました。実に立派な態度だと思いました。

さらに、渡邊議員が述べた決議文に、ふるさと松浦を愛し、誇りに思う心情とまちづくりへの決意が込められており、大変感動しました。

皆さんが提案してくれた貴重な意見をしっかりと受け止め、松浦市でできることについては、実現に向けて努力してまいります。

子ども議員の皆さんは、子ども議会を通して、松浦市のよさや魅力や課題について学ぶことができたと思います。また、この議場で、子ども議員として質問をしたり、議長となって会議を進めたりするなどの貴重な経験をしました。

この学びや経験を、今後の生活や学習に必ず活かしてください。

最後になりましたが、各学校の先生方、保護者の皆様、松浦市議会議員の皆様、御協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げ、講評といたします。

本日はありがとうございました。(降壇)

○議長 (松下あんり議員)

これもちまして、令和7年松浦市子ども議会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午後3時38分 閉会

